

marina park city

# 西宮浜

マリナコミュニティ



## マリナコミュニティ協会賞

### 令和7年度は、木村勇一さんが受賞

西宮マリナパークシティ協議会会長の木村勇一さんが、西宮コミュニティ協会の令和7年度コミュニティ協会賞を受賞しました。

木村さんは、平成24（2012）年10月から、居住する「花のまちマリナヴィラ」の管理組合理事長を皮切りに、平成27年5月から西宮マリナパークシティ協議会の会長代行、翌年からは会長として、現在に至るまで西宮浜地域を代表する立場で活躍を続けています。

さらに、令和2年に共生型地域交流拠点「はまカフェマリナふらっと」を立ち上げ、その後は、運営委員会委員長及び拠点管理者として、地域になくてはならないつどい場の運営にも尽力しています。

「西宮浜が大好き」と常々語る木村さんは、西宮浜の住民みんなが安心して暮らせる街を目指し、防災にも関心を持って研修に参加したり、まちづくりの講演会にも積極的



表彰式当日は出席がかなわず、後日、マリナパークシティ協議会で柴田事務局長から表彰を受ける木村さん



賞状を手に笑顔の木村さん

に参加したりと幅広く活動しています。  
60歳過ぎから活動してきて今年で76歳。これからも元気に活動してください。（柴田）

## 第一回 西宮浜ステージ祭開催 雑賀雅行

西宮浜義務教育学校西校舎体育館で1月24日に新しいイベントを開催しました。西宮浜周辺で活動するグループが、歌やダンスなどを披露するイベント「西宮浜ステージ祭2026」です。昨年秋季に実行委員会を立ち上げ、参加団体の募集を開始しました。今回は9団体が参加。ジャズ演奏や歌、劇、合唱、ハンドベル、パレエなど、幅広い演目を披露することができました。MJO（マリナ・ジュニア・ジャズ・オーケストラ）のオープニングから始まり、最後は全員が参加して『ピリール』を合唱。盛況のうちに、事故などもなく無事に実施できました。

参加団体一覧 [演目] 当日の演奏順
MJO [ジャズ演奏]
関西ポップスオーケストラ [ジャズ演奏]
阪急学園吹奏楽団 いるびースターズ [吹奏楽]
みんなげんきジム 虹っこミュージカル [歌と劇]
コーロ・マリナ [合唱]
あくらっとハンドベルリンガーズ [ハンドベル]
HAMAKKO BAND+ [弾き語り]
リトルマーメイド パレエ教室 [パレエ]
コールマリナ [合唱]



ステージ祭をきっかけに結成 HAMAKKO BAND +



サプライズの花贈呈もあり、笑顔で集合写真



軽快な吹奏楽で会場の雰囲気も盛り上がります



MJOがオープニングを担当しました



最後は全員で定番の『ピリール』を合唱



華やかな衣装と踊りが素晴らしいパレエ



観客参加型のプログラムでは会場が一体に



案内看板はリトルマーメイドパレエ教室の武岡さん夫妻の作品。

来場者数は約250人でした。忙しい中、サポートいただいた住民の皆さん、当日盛り上げていただいた参加団体の皆さんにはこの場を借りお礼を申し上げます。来年以降も続けていきたいです。

# 祝！二十歳のつどい

寒さ厳しい1月12日、前日の風もやみ、晴れ渡った空の下、「令和8年西宮市二十歳のつどい」が開催されました。会場は宮っ子の特権「阪神甲子園球場！」。寒さを物ともせず、久しぶりに会う友人の姿にあちこちで歓声も上がります。

普段と違うりりしいスーツや華やかな振り袖で着飾った式典の様子を多くの写真で一挙紹介。「子どもの時と変わらないね〜」「この子、誰？」などと、家族で盛り上がってください！



甲子園に西宮市の二十歳が集合

入場は  
7・8号門から



お祝いの花束で  
華やかさアップ

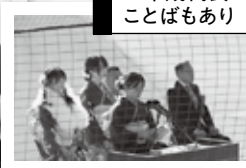


二十歳代表の  
ことばもあり

最後は実行委員会の  
音頭で三本締め



寒い中でも  
笑顔でピース！



二次会の後に御前浜で集合写真。この日の思い出をいつまでも大切に！

代表者2人からの  
メッセージ



西村 尚太さん

今一度尖りたい

成人式とは子供と大人の境目とされることの多いタイミングであろう。しかし実際迎えてみてどうであろうか。20歳になったからといって自分が急成長を遂げ、昨日の自分とは全くの別物になったかといわれるとそうではない。今もこれまで歩んできた道の延長線上を歩いている感覚がある。

このようなめでたい空気感で言うべきことではないかもしれないが、成人した私の抱負は「大人にならない」ことだ。大学生として学校に通い、アルバイトをし、サークルに入り、20歳ど真ん中にある訳だが、過去の私はもっと異端で、もっと自分に期待していたように感じる。授業中には手を挙げ質問し、意見を求め

られると我先に飛び込んだものだ。今の私は、ただの大学生Aになってしまっているのだ。主人公味が薄れてしまっているともいえる。

では、どうすればまた自分の人生の主人公に舞い戻ることができるだろうか。夢を追うことにする。小学生から志していた牧場主という夢を本気で追ってやる。昨今の新規就農は具合が悪いといわれようが飛び込んでやる。周りがあるとかなんと言おうと関係ない。自分の人生の主人公は自分なのだ。今一度尖りたい。

そして、この文章を読んでいる人にも今一度尖ってもらいたいと切に願っている。そうすれば西宮浜から、西宮から日本へ、世界に面白い風を吹かせることができると信じている。そうだ。



木戸 あいさん

感謝とともに歩み出す二十歳

二十歳を迎えるにあたり、まずはこれまで支えてくれた

家族、そして平和で温かいこの地域、西宮浜で共に過ごしてきた友人や先生方に心から感謝したいと思います。幼稚園から中学校まで、長い時間を共に過ごし、成長してきた仲間とは、一度それぞれの道に進み離れた時期もありました。しかし、久しぶりに再会すると、離れていたとは思えないほど、すぐに懐かしさと安心感を取り戻すことができました。大学生として学んでいる人、社会に出て働いている人など、立場はそれぞれ違いますが、成人式、同窓会で交わす何気ない会話や再会の時間に、心が落ち着くのを感じました。改めて、私はこの西宮浜が好きだと実感しました。

今年、学業に真剣に向き

合いながら、インターンシップや海外ボランティアなど、今しかできない挑戦を重ねていきたいと考えています。周囲への感謝を忘れず、責任ある行動ができる大人へと成長していきたいです。



タイガースチームショップ  
アルプス前で記念撮影!



2次会の会場は御前浜の  
CORAL KITCHEN♪



編集後記

『宮っ子』取材班として参加しました。寒い中、カメラを向けると笑顔で撮影に応じてくれました。小さい頃を知っている人も多く、「こんなに立派になって・・・」と、すっかり親視線。二次会や集合写真からも西宮浜ならではの仲の良さを感じました。これからも浜の絆を大切に。

【取材・編集・木戸】

西宮浜のひとつ(34)



高田 光教さん (杜のまち)

開放感に満ちた西宮浜

これからも憩いのまちで

幼少の頃、父親の転勤で東に移住していました。大学を卒業して就職。縁あって大阪の企業に移り、35年がたちました。

平成10(1998)年9月の結婚を機に西宮浜に住居を構えました。海が目の前にあり、空が広く感じられ、開放感に満ちた生活。四季の移ろいを感じられ、毎日の散歩も楽しみになるような、花々が咲き誇る美しい街です。

春には桜並木が目の前に広がり、お花見をする人々が各地から訪れます。そして夏には芦屋で行われる花火を目の前で見る事ができ、その音に、幼い頃の長男は泣き出してしまったほどです。

(杜のまち 広報部)

秋にはこのヨットハーバーでも花火が打ち上がり、住民の歓声はものすごかったです。冬は各まちでイルミネーションの点灯が行われ、クリスマスモードを盛り上げています。

芝生公園も近く、2人の子どもも芝生の上でサッカーや駆けっこなど安心して遊べる環境が整っており、今でも彼らの心の中で当時の記憶が残っているようです。また、西宮浜で育った彼らが、社会人となった現在でも、幼少期からの友人らと遊びに出かけるのを見ると、一生の友としてこの先も進んでいってほしいと思います。

私自身も学生時代にサッカーをやっており、遊びがてらサッカーを教え、現在も蹴っています。富士山登頂も果たしたので、今後は登山などに移行中? かな...。みんなが一から育て上げたこの街は、豊かな自然をもちつつ、公園や緑地の整備を進め、住む人々の憩いの街として発展していただきたいと思います。

阪神・淡路大震災31年 記念特別講演会

「阪神・淡路大震災31年記念特別講演会」が1月17日、協和マリナホテルで開かれ、多くの市民が参加しました。震災の経験を風化させることなく次世代へ伝え、地域の防災力を高めることが目的です。

講演では、災害時に地域で支え合う「自助・共助」の大切さや、医療・看護の視点から見た減災の取り組み、病院の業務継続計画(BCP)について話がありました。また、「マリナパーク災害時医療福祉ボランティア(MPDNAV)」や、看護職のネットワーク「まちの減災ナース」の活動も紹介され、平時から地域とつながる医療専門職の役割の重要性が共有されました。

本講演会は、兵庫県災害医療センター顧問で日本災害医学会の鶴飼卓医師を中心に、日本災害看護学会の渡辺史子氏、協和マリナホテル事務長の奥屋晋氏らの協力で実現しました。講演には、災害現場の実践について稲葉基隆

医師、日本災害看護学会副理事長の西上あゆみ氏も登壇しました。

日頃から地域のつながりを育み、医療と地域が連携して備えることの大切さを改めて考える機会となりました。(渡辺)



まちの減災ナース活動講話を聞く参加者

防災フェスタ in 西宮浜 3月1日に学校で開催

地域住民が防災を体験しながら学ぶ「防災フェスタ in 西宮浜」が、西宮浜義務教育学校西校舎で開催されました。会場では、防災講演の他、段ボールベッドや災害トイレの組み立て体験、防災倉庫の見学、給水体験が行われ、消防警察、自衛隊の車両展示もあり、子どもから大人まで防災を身近に学ぶ1日となりました。災害救助犬のデモンストラーションでは、小屋に隠れた子どもたちを救助犬が発見

し、ほえて知らせるたびに大きな拍手が送られました。

また、西宮浜医療福祉ボランティアの医師、薬剤師、まちの減災ナースの看護師らが協働し、災害時を想定した模擬救護所を開設。地域ボランティア「サクラボート」の皆さんが傷病者役となり、実際の災害現場で使われるトリアージタグを用いたトリアージ(傷病者の重症度と治療優先位の判断)が行われました。その後、シーツや毛布で作った担架を使って、地域住民や子どもたち、自衛隊、市・防災危機管理課の職員らが傷病者を2階の救護所へ搬送しました。

自助、共助に公助も加えて、地域全体が一体となって命を守る行動を体験する機会となりました。(渡辺)



まちの減災ナースチームと住民、市職員、自衛隊が協力してシーツ担架で搬送する様子